

環境に係る情報協議会 国営総合農地防災事業 幌延地区

1. 事業の概要(案)

《事業の目的》

本地区は、泥炭土に起因する地盤沈下の進行により、農業用排水路及び農用地の機能低下が生じており、降雨時には、たん水・過湿被害等が発生するなど、農業経営に大きな支障を及ぼしている。

このため、本事業により農業用排水路の整備を行うとともに、暗渠排水、整地を行い、農業用排水路及び農用地の機能を回復することで、農業経営の安定を図り、併せて国土保全に資することを目的としている。

《受益面積》 2,700ha(畑)

《主要工事計画(案)》 ・農地防災
排水路 14条 L=19.5km(改修)
・農地保全
暗渠排水、整地 2,700ha

2. 幌延町の環境に対する考え方

(「幌延町田園環境整備マスタープラン」より)

《農村環境の現状と課題》

【現状】

幌延町は、広大なサロベツ原野を含む、国立公園の玄関口になっている。原野には、多くの植物群落があり、また川の一部には、イトウ、ヤマベなどが確認されている。

【課題】

幌延町の農用地は、泥炭地という特殊土壌地帯が多く、また低地である。農作物の生産性を高めるためにも、河川、排水路整備は必要不可欠な整備であるが、湿原、河川に生息する貴重な資源を保全するうえでも、土砂流失防止、魚道の整備など、生態系に配慮した整備を行う必要がある。

《環境保全の基本的考え方》

本町は、サロベツ原野など自然の環境に満ちあふれたまちである。この貴重な自然環境は、長い歴史の中でつくり上げられたものであり、二度と手に入れることが不可能である。今後の開発においても、この自然を保全し、次世代に継続していくよう心掛けていかなければならない。繁殖が行なわれているような生態系拠点は現状のまま保全し、動植物の生息を可能にするためにも、自然環境に配慮した周辺整備に努め、水辺は親水空間として確保していくことが必要となっている。

3. 環境配慮のための環境調査

《基本方針》

- ・既往の調査位置や結果を踏まえ、不足している排水路周辺及び農用地において動植物の生息・生育状況の現地調査を実施する。
- ・事業実施中における水質への影響を確認するため、排水路下流部で必要な水質調査を実施する。
- ・本地区は、利尻礼文サロベツ国立公園に隣接及び一部国立公園内に位置していることから、農地と湿原の隣接地において、植物の生育状況及び地下水位の現地調査を実施する。

《環境調査内容》

- | | |
|-------|---|
| ○調査項目 | ①鳥類 ②魚類 ③両生・は虫類 ④昆虫類
⑤底生動物 ⑥植物 ⑦水質 ⑧地下水位 |
| ○調査方法 | 鳥 類 ・ ラインセンサス法、定点観察法
魚 類 ・ 採捕調査
両生・は虫類 ・ 目撃法、捕獲確認法
昆 虫 類 ・ 任意採集法、ライトトラップ法、
ベイトトラップ法
底 生 動 物 ・ 定性採集法
植 物 ・ 群落組成調査、植物相調査
水 質 ・ 濁度、SS
地 下 水 位 ・ 地下水位調査 |